

衆議院議員

神奈川5区 <戸塚・泉・瀬谷区>



維新の党

水戸まさし

KICK OFF通信

責任の持てる政治を!

<安保法制> グレーゾーンとは何か?

◆強行採決による 衆議院通過

ご案内の通り、衆議院では与党による強行採決の結果、安保法案は参議院へと送られました。110時間も審議時間をかけたのだから、議論は尽くしたという言い分でしたが、8割以上の国民は、今もなお反対、もしくは異論を唱えております。

「現政権が憲法解釈を変えるなら、やはり憲法改正の手続きを取る必要あり!」。今法案は、自衛隊の活動範囲を世界中に広げ、戦地の近くで随時支援できる内容です。そうなれば、他国の武力行使と一体化する懸念があり、それが憲法9条1項に違反してしまう、多くの憲法学者がそう指摘しております。

◆政府が手こずる課題

昨年5月、政府与党は安全保障政策を進める上で、法制化すべき15の事例を取り上げ、協議に入りました。この中で真っ先に課題となったのは、「グレーゾーン事態」という事例。平時(白)でも、有事(黒)でもない状況を「灰色」と表現して、①国家間の利害対立があり、②武力攻撃に当たらない範囲内で、③自国の主張の受け入れを強要する行為、まさに危機事態と隣り合わせ状況を指します。

もちろん日本領海内ですので、不審船侵入してきた際には、警察権を行使して外に追い出す必要があります。一義的には海上保安庁がその任に当たるものですが、自衛隊の出動要請も同時に視野に入れて対処しなければなりません。しかし発令手続きを経ている間に、不法行為による被害が拡大する可能性は十分あります。

今回、安倍首相は、ことの重大性を知っていながら、発令手続きを迅速化すれば十分対応できるとしました。電話等による国家安全保障会議の審議、さらに電話等による閣議決定、という手続きです。そもそも、電話というツールによって、安全保障会議や閣議が開催できるとは到底思えず、結局は形式的になってしまいます。

◆野党としての領域警備 法案

したがって、私たちの案はこの「グレーゾーン事態」が発生した場合には、国交大臣の要請に基づいて、防衛大臣が責任をもって自衛隊出動を命じることをルール化しました。例えば、先の小笠原周辺海域において、中国漁船がサンゴ礁を略奪する事件があった際に、このルールに則り自衛隊がサポートできたならば、被害は最小限に抑えることが出来たのではないのでしょうか。

内外にそうした姿勢を見せつつ、抑止力の強化につながることを肝要です。未然の防止策、これこそ日本の平和が保たれ、もって国際秩序を維持する一助になることを信じて止みません。

水戸まさしのプロフィール

昭和37年	7月28日生まれ 神奈川県立湘南高校・慶應義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に
平成 4年	「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格 (平成10年に開業登録)
平成 7年	県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
平成19年	第21回 参議院議員選挙 当選 予算委員会・財政金融委員会・ODA特別委員会理事
平成26年	第47回 衆議院議員選挙 当選 総務委員会理事 維新の党・国家政策部会長 維新の党・税制調査会事務局長 etc
<血液型>	○型
<趣味>	マラソン、水泳、サッカー、映画鑑賞
<好物>	牛丼、チョコレート
<尊敬する人>	西郷隆盛